

パーキンソン病について

今回は日本神経学会神経内科専門医の矢部勇人医師に「パーキンソン病」について伺いました。



▲矢部勇人 医師

パーキンソン病は脳の病気の中では有名で、皆さん一度は聞いたことがあります。手がふるえる病気ですね」という声が聞こえてきそうですが、これは一部間違いです。

パーキンソン病の中では、皆さんは一度は聞いたことがあります。「手がふるえる病気ですね」という声が聞こえてきそうですが、これは一部間違いです。

治療としては、基本的には飲み薬での治療になります。近年飲み薬の種類も増え、治療法に幅が出きました。病気の初期の段階では、少量の薬でも十分に効果がありますが、病気の進行に伴い、次第に薬の効果が不十分

になります。そのため歩行が小刻みで、前かがみになることもあります。これらの症状があれば、手がふるえていても病院を受診してみてください。



がありますので、年せになると手がふるえていても、パーキンソン病の可能性がありますので、年せ

いなどと考へる前に一度病院を受診してみてください。薬を飲むタイミングを変えたりと、細かな薬の調整が必要となつてきます。近年では皮膚から吸収される貼り薬や皮下注射で用いる薬剤、胃からチューブを入れポンプを使って腸に持続的に薬を投与する方法などもあ

ります。このように、治療の選択肢が増えてきます。昨年から持続的な薬の投与法の選択肢として、皮下ポンプを用いて薬を入れ続ける治療

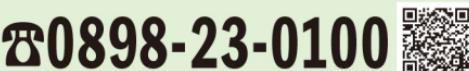
になります。しかし、適切な治療により症状が改善し、日常生活を改善させることができます。お困りの方は、ぜひ一度、専門医の受診を検討してみてください。

くなる姿勢反射障害など動作緩慢やバランスが悪くなるなど

病気の中では有名で、皆さん一度は聞いたことがあります。「手がふるえる病気ですね」という声が聞こえてきそうですが、これは一部間違いです。

治療としては、基本的には飲み薬での治療になります。近年飲み薬の種類も増え、治療法に幅が出ました。病気の初期の段階では、少量の薬でも十分に効果がありますが、病気の進行に伴い、次第に薬の効果が不十分

になります。そのため歩行が小刻みで、前かがみになることもあります。これらの症状があれば、手がふるえていても病院を受診してみてください。



社会福祉法人
恩賜財団

済生会今治第二病院

今治市北日吉町1丁目7番43号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/site/saiseikai-imabaridai2/>